

津山地域づくり計画

津山地域づくり計画策定委員会

津山地域づくり計画

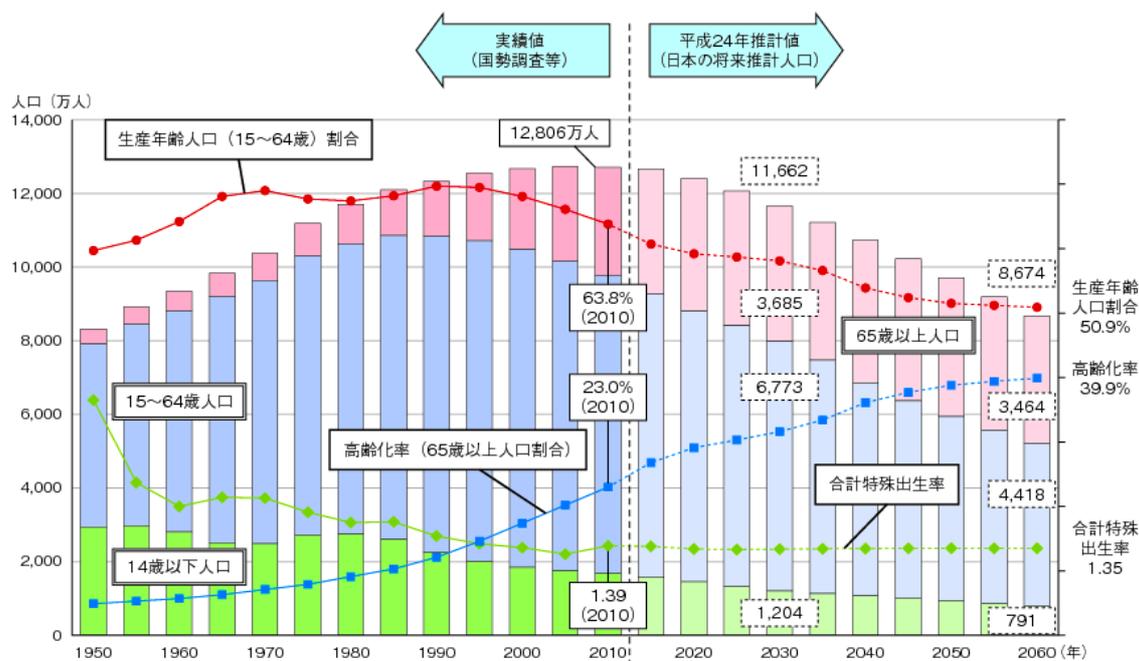
はじめに

地域のことは地域だけで考えてもその問題解決は困難です。日本全体の視野から地域ということを考えなければ同じ失敗を繰り返すだけです。

将来にわたって地域のことを考えてゆく時、この全体からの視野として避けて通れない問題とは・・・

「人口減少問題」です。

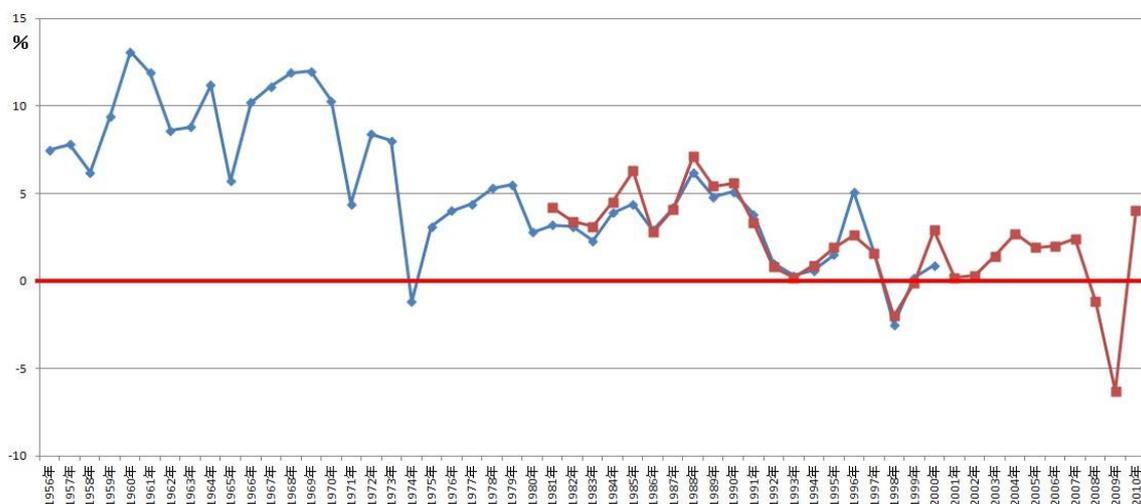
日本の人口は有史以来初めての人口減少という局面を迎えました。総務省の統計調査によると2060年には1950年代と同じ人口になります。昭和25年の朝鮮戦争が勃発した年です。良くも悪くも急速な日本の戦後復旧の切掛けとなった特需の始まりの年ということになります。



日本はその後急速な経済発展を遂げ高度成長期には平均9.1%という驚異的なGDP成長率を達成してきました。それに伴い人々の暮らしも安定化していきましたが、経済的な満足感は満たされつつも現状を見ると個人の幸福感は少なくなってきたように思えます。また、合計特殊出生率（女性が一生の中で出生する子供の平均数）を考えると1947年をピークに減少してきているので経済発展＝出生率という事にもなりません。

経済の発展と共に日本の総人口がピークを迎える2010年まで人口が増加していったのは医療の技術発展と、手厚い保険制度のおかげで平均寿命が延びた結果です。

これらを踏まえこれから様々な問題を解決してゆくにあたって諸問題の原因となるこの人口減少を解決してゆかなければならないのはもちろんですが、この問題はすでに60年前からの問題であり、その解決には長い時間と忍耐的な努力が必要だと思います。そんな中で今、私たちが取り組まなければならない喫緊の問題となるのは如何に生産人口を確保するか？ということです。そしてなるべく長い時間（出生率が上向くまで）現状を維持し、問題解決のために地域として発展してゆかなければなりません。その長期的な計画期間の中で根本の出生率の問題解決に取り組んでゆきます。



* 参考：実質 GDP 増加率の推移

- 1973年の落ち込みはオイルショックによる。
- 1998年の落ち込みはバブル崩壊による。
- 2009年の落ち込みはリーマンショックによる。

登米市津山地区の概要

年	区分	世帯数 (戸)	人口 (人)			前回国勢調査に 対する 人口増減率 (%)	1世帯当たり の人口 (人)	豊川市の人口 (人)	津山地区 の人口割合 (%)	岩手県盛岡 市の人口 (人)	茨城県龍ヶ 崎市の人口 (人)
			男	女	総計						
昭和30年 (1955)		1,167	3,344	3,544	6,888	-	59	128,753	5.3	142,875	
昭和35年 (1960)		1,197	3,149	3,403	6,552	△ 4.9	5.5	122,386	5.4	157,441	
昭和40年 (1965)		1,188	2,943	3,107	6,050	△ 7.7	5.1	111,200	5.4	176,967	
昭和45年 (1970)		1,162	2,620	2,825	5,445	△ 10.0	4.7	102,525	5.3	196,036	
昭和50年 (1975)		1,174	2,445	2,655	5,100	△ 6.3	4.3	98,086	5.2	216,273	
昭和55年 (1980)		1,178	2,438	2,618	5,056	△ 0.9	4.2	98,569	5.1	229,114	
昭和60年 (1985)		1,185	2,407	2,606	5,013	△ 0.9	4.2	99,182	5.1	235,469	
平成2年 (1990)		1,170	2,395	2,520	4,915	△ 2.0	4.2	98,231	5.0	235,434	57,238
平成7年 (1995)		1,153	2,316	2,427	4,743	△ 3.5	4.1	96,832	4.9	266,478	69,163
平成12年 (2000)		1,139	2,122	2,258	4,380	△ 7.7	3.9	93,769	4.7	268,843	76,923
平成17年 (2005)		1,089	1,930	2,077	4,007	△ 8.5	3.6	89,316	4.5	287,192	78,950
平成22年 (2010)		1,066	1,768	1,946	3,714	△ 7.3	3.4	83,969	4.4	298,348	80,334
平成23年 (2011)		1,208	1,836	1,971	3,807		3.2	85,611			
平成24年 (2012)		1,234	1,826	1,949	3,775		3.1	85,237			
平成25年 (2013)		1,210	1,772	1,930	3,702		3.1	84,672			
平成26年 (2014)		1,229	1,741	1,907	3,648		3	83,991			
平成27年 (2015)		1,217	1,731	1,886	3,617		3	83,679			この頃のみ27年1月末

H9郡南村編入
H18玉山村編入

資料：国勢調査

資料：津山総合支所調査

目 標

人口増加を根本の問題として捉え最終解決目標とします。しかし、現在の状況ではその問題解決だけを追っている時間的余裕がないのも事実です。今すぐ先にある解決しなければならない問題とは、生産人口が減少していることによる様々なことへの対応（政治・経済・文化・教育・コミュニティ等）です。そのために今私たちがしなければならないことは地域でできる私たちの取り組みです。そこでそれらを分かり易く取り組みやすくするためにテーマを設けます。

そのテーマを

「津山宝”（だから）」

として 「～だから」 にこだわり、宝物に当たるものを光とし、逆に問題になっている部分を影として分類し、それらの発展と改善を目指し、やがて光が増えてゆき地域そのものが宝となり光り輝くように、より良い地域となりその問題解決にあたってゆくことを目標とします。



各テーマについて

テーマである「宝」を更に生活の基本である「衣食住」を大項目とし、それぞれの分野で現状と課題を見直し、この計画の指標とします。

「衣」 (身にまとう物、着るもの、品性、文化・教育)



衣とは身にまとうもの、目に見える衣類だけではなく、人格や品性、行い、そして文化的教養を衣とします。

「食」 (農作物・健康・生涯学習・スポーツ)



食に関連するのは一次産業と健康です。食べることは生きる基本であり、その糧を与えるのは農業であり、健康が伴って豊かな生活が実現するものと考えます。

「住」 (環境 (自然・人間関係)・利便性・防災)

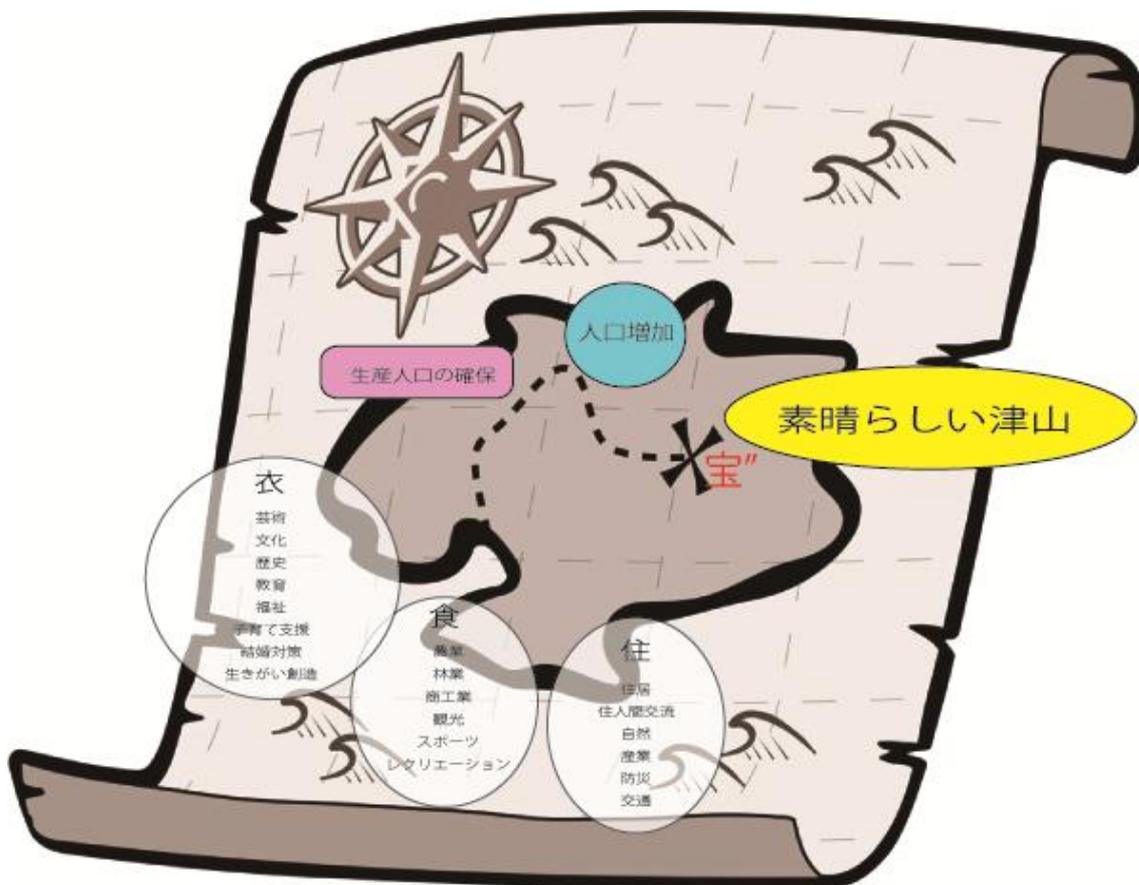


住は生活に関連する事項として扱います。住居、地域、自然、防災、コミュニケーションを住環境としてとらえます。

指 標

戦後の急速な発展を経て私たちの生活様式も大きく変化してきました。更に近年では IT の発達が生活へ浸透し、古来から地域が育んできた社会構造そのものを変化させました。過去には「誰しものが豊かさと幸せを実感していた」それは現実社会の中では当たり前のことでしたが、経済発展と IT 化の陰でその幸福の価値観が大きく変化してきたことが今の私たちの何かしらの喪失感や不足感となっているのかも知れません。

私たちはその時代の流れの中で、これまで多くのものを失くしてきたように思えますが、まだまだ失われずに息づいているものもあります。そして本来の生活の中でそれらは自然と必要とされ生かされてきたものです。それを「宝」と位置づけし、あらためて見つけ出し、また、今まで光を纏う事のなかったものも目を凝らし発見し、発掘してゆければ新たな「宝」と出来ると考えます。その宝こそがこの津山地区の将来を明るいものに変えてゆき、それがやがて根本の問題解決へと至る事を目標とします。



検討事項

テーマ 「衣」

芸術・文化・歴史について

- 光・・・1 文化協会の活動があり、文化祭への取り組み。
2 津山には潜在的な歴史的価値のあるものが多数存在する。
- 影・・・1 文化のとらえ方が狭義的でもっと現代社会の中での文化の意味を
発展させなければならない。
2 歴史的な価値観が住民にあまり知られていない。

宝 “化のために

- 1 個人の趣味の文化化
常設の芸術・文化の発表の場の提供化
- 2 町史を親しめる形で周知化する取り組み

教育・福祉について

- 光・・・1 町内にある学校は地域と密接に関係している。
2 行政による福祉サービスはある程度満足できている。
- 影・・・1 児童数の減少は学校運営にも影響している。
2 行政の対応には限界があり、地域としての対応が求められる。

宝 “化のために

- 1 コミュニティスクールの推進化
- 2 集落単位での対応の検討化

<子育て支援について>

- 光・・・待機児童0の環境。
- 影・・・家庭外での乳児・幼児育児への支援が公的機関のみ。
母親同士の交流コミュニケーションの場が少ない。

宝 “化のために

- 地域ぐるみの子育て支援化
- 若い母親たちへの理解と連携化
- 交流できるサークルの創出
- 児童館及び地域内での設備拡充

結婚対策について

光・・・町内にもまだまだ若い世代の未婚者が存在している。

影・・・出会いの場が無い。若者へは既婚者のマイナスイメージばかり伝達されている。義務？意識の強要性がある？

宝 “化のために

余暇時間の確保

既婚者から未婚者への幸せの伝達化

社会を挙げての結婚への意識改革

新たな生きがいの創造について

日本人の平均寿命が毎年更新される中、私たちは新たなライフスタイルを構築しなければならなくなりました。定年になってからその後の人生を考えるのではなく、若い時代から第二の人生をどの様に過ごすのかが大きな課題となります。人口減少が加速化する中でそれは個人ではなく、地域の中でその仕組みや取組を考えてゆかなければなりません。

光・・・元気な高齢者の増加。

社会での生きがい作りへの取り組み。

影・・・目標の喪失。

社会の一員としてのリタイア。

宝 “化のために

同世代異世代間でのお互いの価値観の共有

必要とされる社会の中での役割の明確化

生きる喜びの再発見(生きがい創造)

若者の郷土理解と伝承・学校教育及び社会教育への取り組み

光・・・学校教育への一般住民の参加。(地域としての理解が大きい)

影・・・若者の意識離れ。

社会参加の場が無い。(関わりが少ない)

社会教育の場が無い。

宝 “化のために

勉強以外の教育の場の創出化

地域住民の意識改革

テーマ 「食」

農業について

安定的供給と生産・地域内での自給率の向上

光・・・個人菜園での生産率は供給過剰状態。(おすそわけ)

農業法人の設立。

影・・・各家庭の食材供給のほとんどは町外スーパー等利用。

産直の町民の利用率が低い。(産直のあり方にも問題?)

町内商店の衰退。

宝 “化のために

産直の活性化

町内商店利用率向上化の為の仕組み作り

新たな地域内振興の創出化

地域内農業の連携化

6次産業への取り組み化

<農業への取り組み>

1 担い手の創出

光・・・意欲ある人材は潜在的に存在している。

影・・・情報が不足（補助制度・就農手段等）。収入への不安。
農地の有効利用・遊休農地の拡大。

宝 “化のために

積極的な情報発信化

農地利用率向上化

2 遊休農地対策（分類農業）

光・・・圃場整備地 桑園から菜園への転換。
高齢者の畑作り。（趣味としての農業）

影・・・耕作労働力の減少化。（高齢化）

宝 “化のために

趣味と実益を兼ねた生きがい農業の創出化

3 資源の利用・再発掘による特産品の開発推進

光・・・世間に認知されていない食材等。

影・・・身近に存在するが商材として認識されていない。
商品化や開発が図られていない。

宝 “化のために

家庭や趣味の世界での料理や味付け等を広域化

(商品化等)

津山にある自然の食材の有効利用化

林業について

1 森林資源の有効活用需要拡大

光・・・森林を活用した人材育成を実施している。

町内木材利用率が上昇中。

人工林の更新が順調に推移。

影・・・森林資源としての活用が不十分。

木材価格の低迷。

宝 “化のために

山の整備推進化

林地の積極的利用化

(林業以外での収入源化やレクリエーション化)

商工業について

1 既存商店の活性化・新たな商域の創造

光・・・既存商店で、頑張っている商店もある。

影・・・シャッター通り化が深刻。

後継者不在。

宝 “化のために

町内商店利用率向上化の為の仕組み作り

2 企業と地域との連携

光・・・工業団地の実働。

影・・・地元雇用の場となっていない。

地域との関係が希薄。

宝 “化のために

町内企業と連携したイベント等の創出化

観光について

光・・・潜在的な観光地が存在。(もくもくランド・歴史的遺構等)

影・・・地域観光としてのまとまりが無い。

情報の発信不足。(コマーシャルが不足)

宝“化のために

観光地としてのまとまり化

情報の積極的発信

イベントの創出・共同化

スポーツ・レクリエーションについて

光・・・津山地区はスポーツが盛ん。(ソフトボール・バレー等)

参加率も高い。

影・・・町民運動会への意識低下。若者の不参加率の増加。

時代に合わせた運動設備の充実不足。

(トレーニングマシン等や設備)

宝“化のために

不参加の解消化

1 地域コミュニケーション喪失化の解消

2 余暇時間の確保

3 人員不足解消----> 行政区見直し、少子化対策

4 施設設備の充実

5 運動レクリエーションへの普及啓発

テーマ 「住」

住居・地域住民間交流について

光・・・恵まれた自然環境の中に暮らしている。

古民家が現存。

契約講等強い絆が現存する。

影・・・住民同士の交流の希薄化。

住居の更新ができない。(危険住宅の増加)

自然災害の危険性を排除できない。

宝 “化のために

移住者等町外からの積極受け入れ化

若者たちへの住居供給化

個人住宅の地域開放化

(料理教室やお茶のみ集会部屋等)

古民家の積極的利用

<世代間交流>

光・・・契約講・各地域行事などにより維持されている。

影・・・世代交代がうまくいっていない。

若者のチャンスが少ない。

各世代間交流の場が少ない。

宝 “化のために

若者に尊敬される高齢者になる化

中年世代の意識改革化

自然との共生について

光・・・住環境の周りには自然が豊富。

影・・・自然と対峙した生活。

せつかくの環境を上手に取り込めていない。

宝 “化のために

津山の自然環境の積極的利用化

エコ生活の特典化

(自然との共生化)

新たな産業の創出（働く場）

光・・・時代的な背景により一次産業への注目度が増している。

地方自治への流れに期待が持てる。

影・・・取り組みが不十分

宝 “化のために

地域内雇用の創出化

(新しい収入源の創出化)

防災防犯体制

光・・・自主防災組織の立ち上げ、防災意識の向上

闇・・・運営運用の計画性や持続性

宝 “化のために

防災設備の防災以外での利用化

地域内交通路について

光・・・整備が進んできている。

影・・・危険個所がある。

(保険福祉・健康促進化・ユニバーサルデザインの充実)

宝 “化のために

地域内公道の通行以外での利用化

津山オリジナル看板の設置